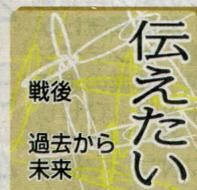


# 戦争一色 当時の暮らしは

## 諏訪市博物館 「終戦80年 諏訪の戦時記憶」



### 戦時品や写真パネル展示



諏訪市博物館（同市中洲）は、ミニ展示「終戦80年 諏訪の戦時記憶」を2階すわ大昔ミニギャラリーで行っている。在郷軍人がいつ召集されても支障ないよう常に準備していた奉公袋、出征軍人の家族や傷痍軍人の救護を目的とした愛国婦人会のたすきなどの戦時品12点と、戦時中の市民らを写した写真パネル8枚を展示。戦争一色に染まった当時の人々の暮らしをうかがい知ることができる。9月28日まで。

（山本雄太）

同館では、戦後50年の節目に大々的な戦争の展示を行い、その際に市民から多くの戦時品が寄せられたという。

市民から寄贈された戦時品が並ぶ諏訪市博物館のミニ展示「終戦80年 諏訪の戦時記憶」

今回、戦争について改めて考える機会にしてみらおうと展示を企画。「出征兵士」婦人と子どもたち」をキーワードに展示品を選んだ。奉公袋の中には軍隊手帳、勲章、適任証書、貯金通帳などを入れるよう指示され、その他、出征兵士の無事を願っ

て女性たちが作った千人針や、遺書が入っていることもあった。会場には遺品を家族の元に送るための袋と住所が書かれた木札、自身の髪と爪をそれぞれ包んだ封筒が並べられており、出征したら二度と帰って来られないことも覚悟していた様子がうかがえる。

兵士に送る慰問袋を作る婦人の女性たち、防毒マスクを付けた子どもの姿などがあり、女性や子どもたちの日常生活にも戦争の影響があったことを伝えている。展示品やパネルの解説文は、学芸員資格取得のために同館で実習を行った大学生3人が作成した。

写真パネルには、戦地の

同館は「諏訪は幸いにも空

襲などはなかったが、人々の暮らしは戦争一色となっていた。激動の時代を生きた諏訪の人たちの姿を見つめ直してほしい」としている。

開館時間は午前9時～午後5時。月曜休館（祝日の場合は翌日）。入館料は一般310円、小中学生150円。問い合わせは同館（電話0266・522・7080）へ。